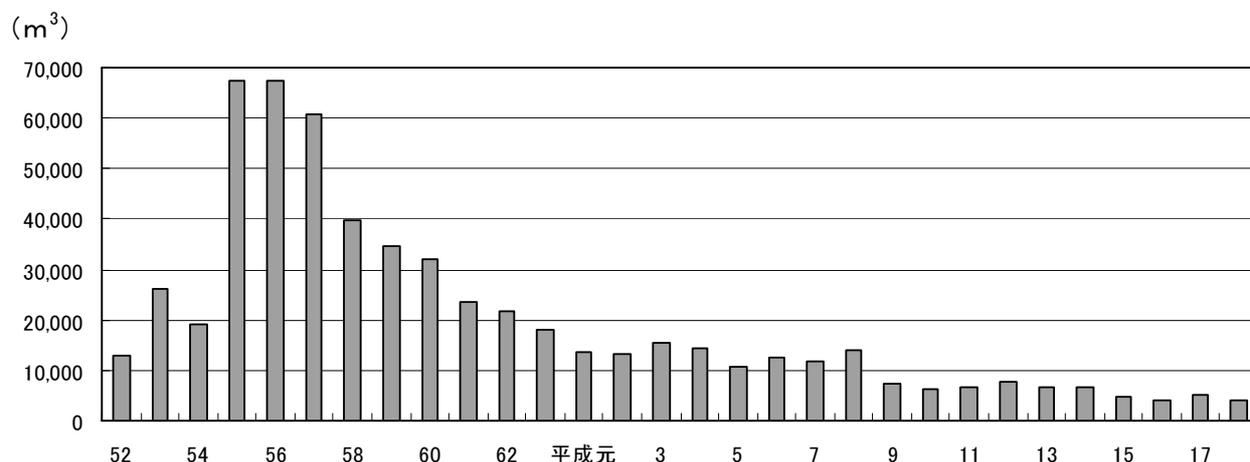


6. 森林の保護

(1) 森林病虫害の防除

—松くい虫被害対策及びサンプスギ溝腐病対策—

松くい虫被害量の推移



「みどり推進課資料」

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で発生し、47年ごろまでは県南部(安房・君津)を中心に発生していたが、その後中央部(夷隅・長生・千葉)に拡大し、55年には夏の高温少雨に加え、松林が集中する北総地域にまん延したため、被害が急増し、翌56年度の被害量は67千m³と過去最高になった。

その後、各種防除対策を実施してきた結果、被害量は年々減少傾向にあり、平成18年度には4.2千m³となった。しかしなお恒常的な被害があるため、継続して被害対策を講じていく必要がある。

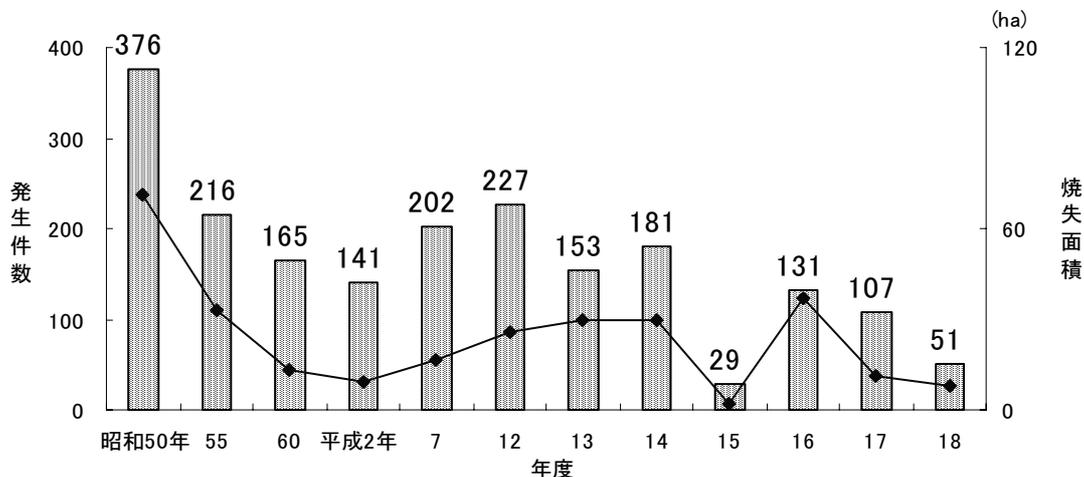
松くい虫被害対策としては、保安林等公益的機能の高い松林を中心に、生活環境や自然環境に配慮しながら、薬剤散布による予防と被害木駆除による感染源対策を実施してきている。

また、サンプスギ溝腐病の被害木において、被害木等の伐倒搬出及び整理等並びに伐採跡地の植林を計画的かつ総合的に実施し、健全で活力ある森林への再生を図った。平成18年度には、伐倒搬出及び整理等76ha、植林16haを実施した。

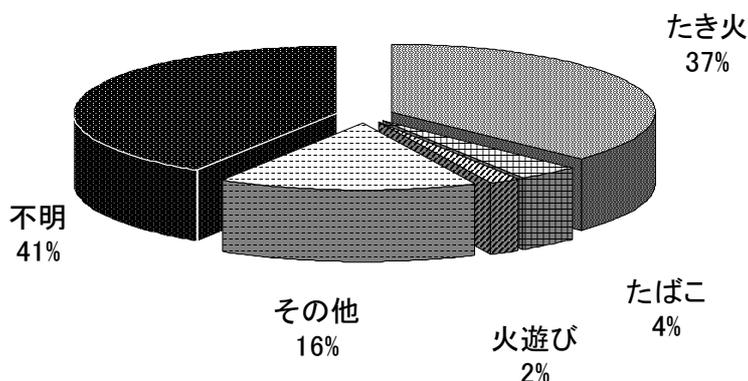
(2) 林野火災

—面積件数とも前年と比較し減少—

林野火災の発生状況の推移



平成18年次 林野火災の原因別内訳



平成18年の林野火災による焼失面積は7.60ha、件数は51件で、前年と比べ出火件数は約2分の1、焼失面積は約3分の2に減少した。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～4月に全体の約78%が集中しており、出火原因については、たき火によるものが全体の37%で最も多く、たばこの4%がこれに次いでいる。

平成18年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図り、森林レクリエーション等による入林者への注意を促すため、林内に山火事予防掲示板、警報旗等を設置した。また、森林保全巡視員による保安林及び林野火災危険地域のパトロールを実施した。